瑞穂町の図書館をみんなで考え、つくるワークショップ実施レポート

第3回<図書館運営・サービス編 1>:瑞穂町の図書館の「テーマ配架」を考えよう

■日時: 2019年11月23日(祝)13:30~16:00(13:00開場)

■開催場所:瑞穂町ふれあいセンター 大会議室 2、大会議室 3

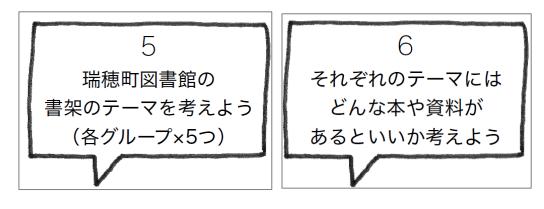
■参加人数:30名

実施スケジュール



取り組んだテーマ

みんなで瑞穂町らしい書架テーマを考えましょう!



各班のまとめ

A 班

<瑞穂町図書館の書架のテーマを考えよう>

- 前回協議した内容からの連続性を意識しながら書架をイメージしていったので、これまでの抽象的 な議論から(少しずつではあるが)具体的なイメージの共有へと進んだ感があった。
- テーマを各々設定するだけではなく、テーマをつなげることの大切さに気づいたのはよかった。
- 「出会いと別れ」「大人になるまで」「人生仲よく」「いのち」「みずほ学」というテーマが、それぞれ どういった意味や事柄を含むのかをみんなできちんと考え議論していたのが印象的だった。
- 「出会いと別れ」は長く続くような書架でという話も出ていたので、書架のテーマを書架構成、空間 デザインに活かしていきたい。

<ワークショップの風景>







B 班

<瑞穂町図書館の書架のテーマを考えよう>

- 大テーマを「図書の国-ホンモノを求めて図書館へ行こうツアー-」として、こどもから大人までみんなが行きたくなるような6つの小さな国(テーマ)を考えられて良かった。
- それぞれのテーマ同士のつながりもイメージしながら検討していた。
- 第2回ワークショップの課題となった地域との連携の中で「農芸の国」を挙げ、学科に順じたコーナーや高校生が図書館に関われる仕組みを提案していた。

<ワークショップの風景>







C 班

<瑞穂町図書館の書架のテーマを考えよう>

- 「みんなの本棚」というテーマで、借りる側も一緒に図書館をつくっていくことへの可能性がみえた。
- 瑞穂町については「瑞穂からの」と「瑞穂(学)」という対比した二つの大きなテーマが出され、瑞穂というテーマでも、瑞穂町民から見た外側の世界と内側の世界の二面性が発見された。
- テーマごとの建築的な配置についても考えられた。「子供」と「共に生きる」は近くにあり、入口には「みんなの本段」がある。書架のレイアウトにも関係してきそうで、もっと深めて話し合っていきたいと感じた。

<ワークショップの風景>







D班

<瑞穂町図書館の書架のテーマを考えよう>

- テーマ配架のよさを認めつつ、テーマ配架の課題や難しさについての深い議論も行われた点がよかったのではないか。
- 「発達障害」など、現在の書架では離れているテーマを具体的にあげて議論が行われたので、テーマ 配架のよさが参加者のあいだで共有された。
- 医療をテーマにした小説でまとめる案に対して、小説や物語をテーマでわけるとかえって探しにくくなってしまうのではないかという意見も出た。
- 与えられたテーマ書架を受け身で利用するだけなく、自分の興味や関心に沿って必要な本を集められるようになるようなワークショップを図書館で行う提案もあり、開館後のプログラムづくりにもつながりが見いだせた。

<ワークショップの風景>







E班

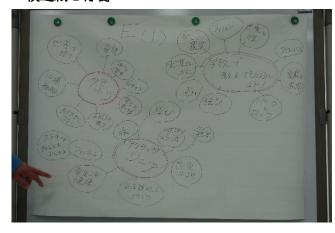
<瑞穂町図書館の書架のテーマを考えよう!>

- 「こんなテーマ配架があったら今図書館に来ない人も来るのではないか」という議論ができたのが 良かった。
- 多様な価値観、複合領域的なつながりを具体的に話し合うことができてよかった。
- 本主体ではなく、利用者主体の発想を体感できた。
- とにかくワクワクした。

<ワークショップの風景>









<瑞穂町図書館からの提案>

・古川司書

・西村司書





<集合写真>



以上